３　新居でも地震対策をしよう

近年発生した地震被害における負傷者の３～５割の方が屋内における家具類の転倒・落下によって負傷していることが判明しています。地震時にはテレビ、電子レンジなどの家電製品や、本棚やタンス、食器棚などの大きな家具が転倒・落下・移動（以下「転倒等」という。）することがあります。

家具類が地震により転倒等すると、転倒等した家具類の下敷きや、移動した家具で負傷したり、転倒等した家具類が出入口を塞いで避難障害を発生させる危険性があります。

また、家具などがストーブなどに転倒等して出火するなど、二次的な被害も引き起こします。

しかし、家具の転倒等防止対策は、重いタンスを動かすなどの手間がかかり、なかなか手を付けられないという方も多いのではないでしょうか。

３月は転勤や入社、入学があり引っ越しの多い季節です。そこでこの機会をとらえ、家具類の転倒等防止対策をしましょう。

家具類の転倒等防止対策は、大切な家族を守るために今日からできる地震対策です。

建物は
大丈夫でも室内は、

家具が転倒！

ア　家具類の転倒・落下・移動防止対策

転倒等防止対策を行う際、まず室内になるべく物を置かない、廊下などに家具類を置かないなどのレイアウトの工夫を検討した上で、家具に転倒防止対策を行うことが基本です。

① 集中収納（居住収納分離）
＋
家具類のレイアウト上の留意点

② 家具類の転倒・落下防止対策
＋
家具類の移動防止対策

③ キャスター付き家具類への対策
（例）可搬ベット，キャスター付きの棚など

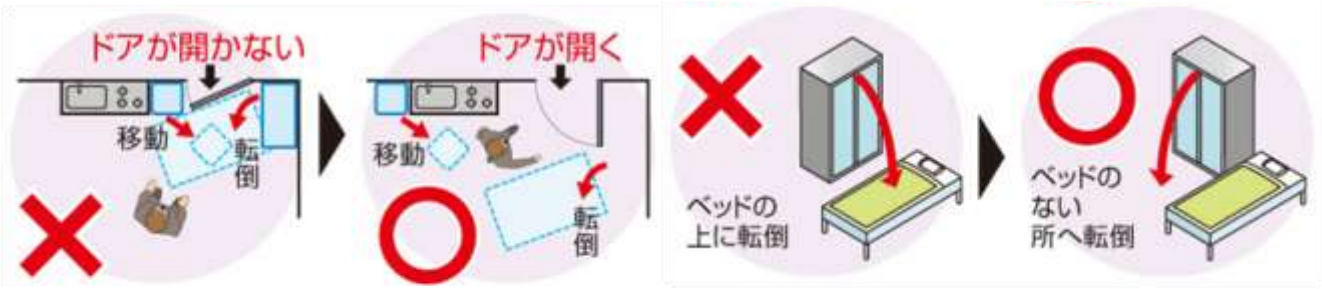
④ キャスターなし家具類への対策
（壁面等への固定が困難な家具）
（例）テーブル，イスなど

① 集中収納（居住収納分離）・家具類のレイアウト上の留意点

納戸やクローゼット、据え付け収納家具への集中収納により、努めて生活空間に家具類を置かないようにしましょう。

次に、負傷や避難障害を発生させにくいレイアウト上の工夫を行うことが重要です。負傷や避難障害を発生させにくいレイアウト上の工夫を行うために、避難通路、出入口周辺に転倒、移動しやすい家具類を置かないようにしましょう。

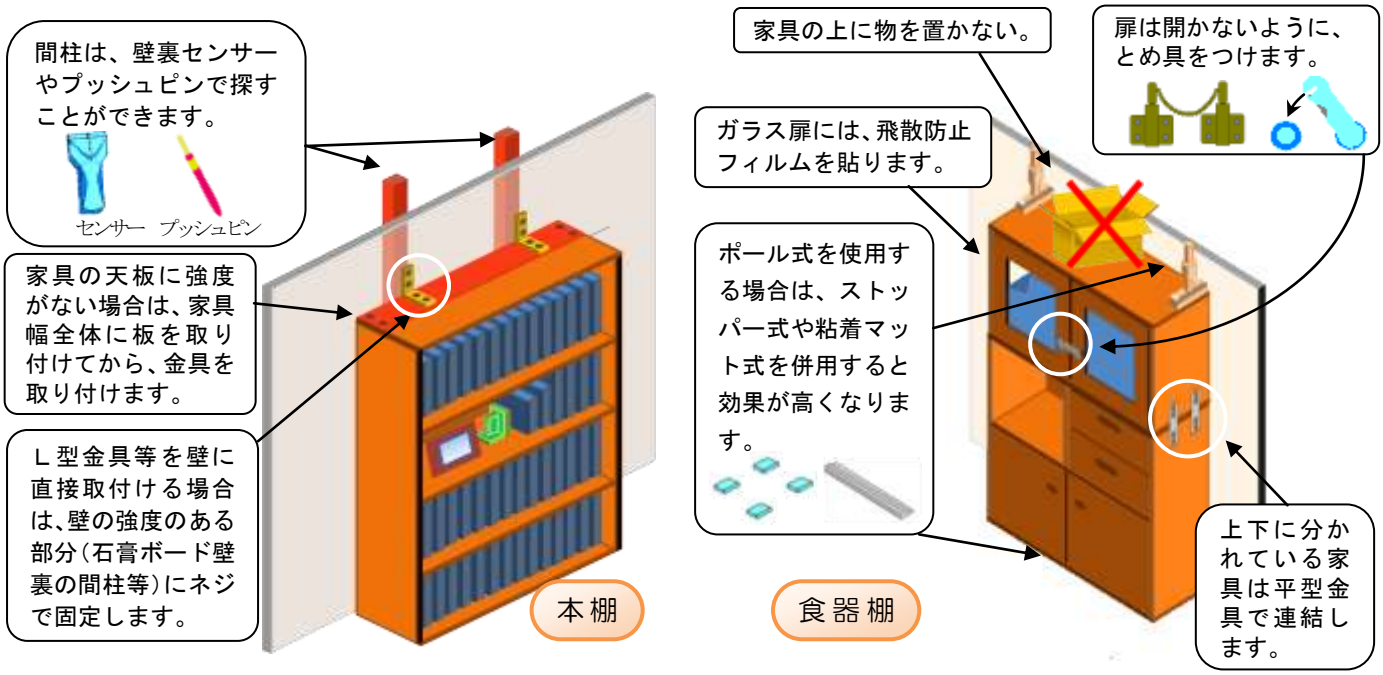
また、引き出しが飛び出すことで、つまずいてケガをしたり、避難の妨げになることがあるので、家具類を置く方向にも注意しましょう。特に、「寝る場所」や「座る場所」にはなるべく家具を置かないようにする。置く場合には背の低い家具にするか、家具の置き方を工夫しましょう。



② 家具類の転倒・落下防止対策

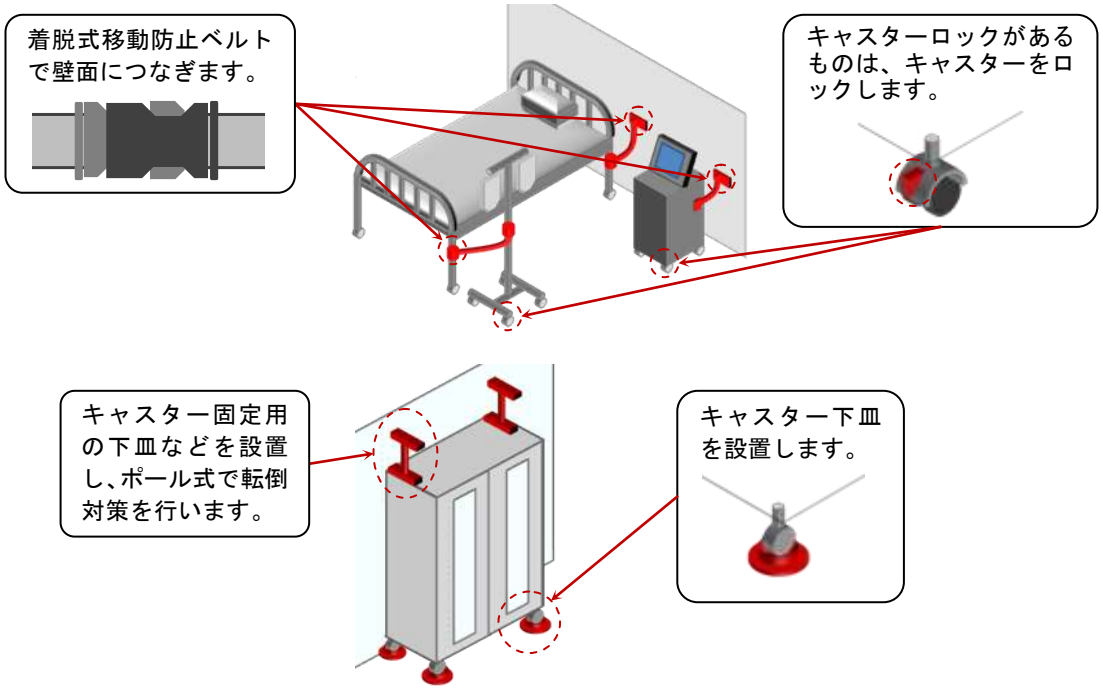
レイアウト上の対策をしたうえで、適切な転倒等防止対策を行いましょう。

転倒等防止対策の基本は、ネジによる固定です。その場合、家具を固定する対象は、壁下地の柱、間柱、胴縁等としましょう。下地材の位置は、下地探知用センサー等の機器、市販の専用プッシュピンといった器具、音による打診により判断できます。家具の天板の後ろ側にしっかりとした桟の入っていないものは、家具の幅全体に板を取り付けてから金具を取り付けましょう。その際、木ネジは長めのものを使用し、ネジ頭までしっかりねじ込む。上下２段式の家具など、やむを得ず積み重ねる場合は平型金具などで連結しましょう。



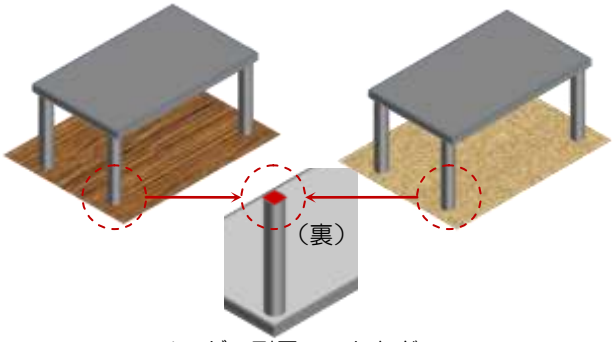
③　キャスター付き家具類への移動防止対策

キャスター付きの家具には日常的に移動することを求められるものと日常的な移動は求められないものがあります。日常的に移動が求められないものとは、引っ越しや部屋の模様替えの時だけ移動するような家具です。



④　キャスターなし家具類への移動防止対策

長周期地震動では、テーブルやイスなど、必ずしも壁面に接して配置することがない背の低い家具類も移動する可能性があるため、これらの家具類の移動防止対策をする必要があります。



フローリング：耐震マットなど
カーペット：すべり止めマットなど

詳しい対策は、東京消防庁ホームページ（http://www.tfd.metro.tokyo.jp）に、掲載しています。

家具類の転倒・落下・移動防止対策チェックリスト

☐　寝室やリビングなど、長い時間居る場所にある家具には、転倒等防止対策をしている。
☐　ポール式（つっぱり棒）で固定している家具には、家具の下側にストッパー式器具（くさび型で、家具を壁側に傾斜させる器具）や粘着マットを併用している。
☐　ポール式（つっぱり棒）を使用する際、天井に強度がない場合は、器具上部と天井との間に当て板を入れて補強をしている。
☐　L 型金具で家具を固定する場合は、壁内の間柱など、強度がある部分にネジ止めをしている。
☐　家電製品は、取扱説明書に従い転倒防止を行っている。
☐　テレビや電子レンジなどは本体を台に固定するとともに、台も壁や床などに固定している。
☐　家具や冷蔵庫の上に落下しやすい物を置いていない。
☐　重い物はできるだけ下に収納している。
☐　家具が転倒等しても逃げ道を塞がない置き方をしている。
☐　窓ガラスの近くに大型の家具や家電製品を置いていない。
☐　ガラス扉のある家具には、収納物が飛び出さないよう、扉に開放防止器具をつけたり、割れたガラスが飛散しないようフィルムを張っている。
☐　キャスター付きの家具類に移動防止対策をしている。